

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300073		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	埼玉本庄市西富田653-1		
自己評価作成日	平成23年1月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)プログレ総合研究所
所在地	〒330-0846 埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成23年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「まごころ」の目指すケアはお年寄りがあるがままの姿で生活の主人公になる事です。そんな生活の場を共に作り上げていくために、利用者様の生活環境や生活習慣を尊重し、その方らしい個性的な空間や人間関係、役割などを常に大切に考え、日々のケアにあたっています。さらに食事、排泄、入浴といった基本的な介護も大切にしています。ゆっくり、のんびりした空間の中で利用者様一人ひとりが、落ち着いて安心して生活していただけるように支援しています。また今年7月にはAEDを設置し、職員全員が救命救急の対応ができるよう、消防署の講習を受けています。AEDにおいては当ホームのみならず、近隣の皆様に活用していただけたらと考えています。

隣家3軒とは防災の時以外にも、協力体制が築かれていて、安心して生活ができる環境がある。AEDを設置している事業所ということも、運営推進会議やグループホーム協議会等で、更に浸透するようにアピールしていると考えていることに、期待できる。平屋作りで天井が高く、のびのびとした空間がある。協同作品の掲示物が部屋を明るく演出して、毎月歳時記にあわせて、楽しく作品が作られている。利用者の得意なことを活かして、葉書の宛名、文面を作成して、馴染みの人達に御礼状を出している。職員は笑顔が絶えないケアを心がけ、実践している。ほんわりとした空間がとても居心地がよい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は当ホーム設立より掲げられているが、職員全員がその意味を理解し実践するよう努めている。また管理者は折に触れ、職員を指導し、その方向性がたがわぬように注意している。	理念は玄関ホールに掲示して、訪問者にも理解して頂けるよう配慮されている。毎日の申し送り時等の確認は欠かさず、日々の生活の中で理念にかなわないケアについては、その場で改善し、理解するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の方々や顔なじみになっている。散歩時に畑の収穫物や切花などをいただいている。また地域の納涼祭にも招待して頂き、参加している。	近隣に畑が多く農作物を頂いて、食事の献立に楽しみを添えている。自治会主催の納涼祭に希望者が参加したり、ホーム主催の行事に参加頂いたりして、良好なつきあいが維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方から認知症の相談をうける。当ホームで行ったオムツメーカーの講習会に近隣の方にも声をかけ、参加していただき好評だった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の自治会長や近隣の方、利用者、家族、職員等の出席のもと会議が行われ、外部評価の報告、今後への取り組み、また防災について等、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	定期的に各関係機関、関係者の協力のもとに、開催されている。地域の交流状況が磐石であり、防災、救命に関しては安全対策が構築されている。	運営推進会議と行事を同時開催しているが、参加する家族の意見を、多数採聴できるように、開催の曜日等の環境作りに更なる努力をしていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者が運営推進会議に出席される。また毎年行われる市内GHを集めた行政指導・報告会にも必ず参加している。また電話やFAXでなく、事あるごとに、まめに市担当者の所に行き、実情を報告し、相談し、アドバイスをもらっている。	市内9ヶ所のグループホーム協議会の研修は欠かさず参加しており常に研鑽に努めている。市役所にも直接面会を基本として、現状報告と相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は正しく理解している。身体拘束についての話し合いも行っている。玄関については、高速インターにつながる国道近くのため、やむなく施錠を行っている。	道路事情により安全に配慮し、玄関の施錠をしているが、敷地内は利用者が自由に入出入りしている。見守りの人員体制が確保できている。言葉による行動の制止等について、職員に十分に指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関して理解を深め、遵守に向け話し合い等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用の方が以前入居していたが、管理者のみの理解にとどまっていた。職員全員の理解につなげるよう今後の課題とする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、十分に時間をとり説明をしている。特に一番不安の多い退去時の解約については納得していただけるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料支払い時や面会等、多くの家族が頻繁に来訪される。その折に意見や要望を伺うようにしている。また家族会においても、希望や意見を伺い、ホームの運営やケアの向上に役立っている。	利用料の持参納入が7割位あり、1週間に20名以上の面会者があるので、来訪のおりに意見、要望を聞くことが出来る環境が整っている。利用者と職員の楽しい会話、笑顔が良いと言われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、いろいろな意見を出し合い検討している。	職員から会議の日程、議題を提出してもらい、自主的に開催できている。棟別に行っているが利用者があるリビングで同席して意見交換をし、利用者の意向をその場で汲み取ることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により、資格手当が給付される。また職員一人ひとりの仕事への取り組む姿勢を見極め、努力、実績により報酬アップを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会にとどまらず、外部研修にも参加している。外部研修参加者は学んできた事の報告を行い、皆に還元する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会会員として、支部会に参加し、他同業者との交流をおこなっている。また当ホームの講習会に、他同業者も参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に直接会い、心身状態等を把握していく。またコミュニケーションをとることにより、不安の解消に努め、今後の関係づくりにつなげていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をとり話を聞く。家族の現状をとらえ、要望に答えるよう努力し、具体的な支援内容を説明し、信頼関係の構築に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療的な対応が特に必要と判断した場合には、医療連携体制の整った他ホームや他施設を紹介する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側ということではなく、できる事はやっていただき、ありがとうございますの気持ちで共に楽しくを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者の生活状況を伝え、家族からの情報や要望を聞き、ともに利用者を支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や自宅近所の方がみえ、墓参りに連れていってくださる。また今まで通っていたなじみの美容室に行く方もいる。日ごろのお礼の意味もこめ、暑中見舞いを全員で書いた。	近隣への外出等、友人や近所の方が誘い合わせてくださり、思いに添った支援が実施されている。来訪者が多いので地域との馴染みの関係が入所後も継続されている良い環境がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつ時、職員も同じテーブルにつき、会話をし、利用者同士の円滑な関係に努めている。職員は利用者同士の会話の橋渡しや、関係が良好に進むよう、それとなく仲立ちをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となっても、見舞いに行くなどして、これまでの関係を大切にしている。退去になった家族から手紙をいただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれの思いを受け止め、ケアに反映させるようにしている。日々の関わりの中で、声なき思いにも気付けるように、表情などにも気を配ることに努めている。	出来る事は自由にして頂ける環境を常に心がけ、危険回避には特に考慮していることが理解できる。食事時間、場所等は制限をせず、思いを尊重している。意向を把握し「待つ」勇気を全職員が持ち合わせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に本人、家族より話を聞かすが、入居後も会話を重ねることにより、継続して生活歴の把握につとめる。また得られた生活歴の情報は、すぐに見られるようにし、職員間で共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すること、その方の思いを感じられるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアについては、面会時等に家族からの要望を聞き、本人の思いを尊重しつつ、どのようにしていくのが最善なのか、職員会議、カンファレンス等で議論をおこなっている。	利用者の生活がよりよくなるために、職員は気付いたことは、申し送りノートに必ず記入し、検討を重ねてケアの向上に繋げている。家族からの意見を充分検討し、計画の作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、業務日誌に食事、水分、バイタル、排泄、夜間の様子等を記録し、変化に気付ける環境づくりをしている。全職員が記録に関わり、情報を共有し、今後のケアの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪だけでなく、希望者にはエステの専門家に美顔をしてもらい、心身ともにリフレッシュしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館を利用し、定期的に本を借りている。また地域のボランティアによる演奏会、アニマルセラピー等により、生活への楽しみ、刺激を感じていただくようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医院が定期的に往診に来るが、入居以前からのかかりつけ医を希望される方は引き続き、かかりつけ医にお願いしている。また希望により、訪問歯科、訪問マッサージも受けられる。	利用者の希望優先にてかかりつけ医に受診することが可能な体制は整えられている。生活に必要であれば訪問リハビリの導入、漢方薬の指導を医師から受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師には、往診時等に情報を伝え連携をはかっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、家族も含め、治療や退院へ向けての支援の準備をしている。随時見舞いに行き、状態を把握するようにしている。事あるごとに近隣病院のSWの所へ顔を出すようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向をふまえ、医師と連携をはかりながら、ホームでできる範囲のことをおこなっている。	医師の判断により、入院に繋げている。生活可能な限界の状況を、職員全員が把握しており、早め早めに家族と相談をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年度内に全職員が消防署において、救命救急法の講習を終了する。急変時の対応については、会議の時等に確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、近隣の方を交えて、昼夜の防災訓練を行っている。近隣に向けての非常ベルの設置、近隣の方の連絡網作成などおこなっている。	近隣住民の連絡網の作成は、夜勤の職員の心強い援護となっている。ホームが県の避難場所に指定されているので、互いに助け合うことが確認できている。年2回の協同訓練が実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や失禁時の更衣など、他の利用者に気付かれないよう、目立たず、さりげない声かけをおこなっている。	生活の中から、排泄リズムを把握し、適時の声かけ、素振りや行動を、職員が察知してケアをしている。季節によって布下着の対応者もいるので、誘導に際しても配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者一人ひとりのペースに合わせ、介護者ではなく利用者自身が行動し、判断できるようにサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間に一齐に全員食事というのではなく、そのとき食欲が無ければ、後で時間をずらして召しあがって頂く。また体操やカラオケ等も参加したい方だけで行い、静かに過ごしたい方は自由にさせていただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月エステカットを利用している。また馴染みの美容室で髪を染める方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや配膳、下膳、テーブル拭き等、利用者に合わせて一緒におこなっている。誕生日には手作りケーキをつくり、誕生日をむかえた方に入刀してもらい、楽しみながら皆で食べる。	調理専門の職員がいるので、野菜の皮抜きや、切り方の下ごしらえの協力は利用者から得られ、会話を楽しみながら一緒に準備をしている。外食支援はファミリーレストランが多く楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表により、摂取カロリーが把握できる。食事や水分の摂取量は生活記録に記録し、一目でわかるようにしている。また一人ひとりに合わせて、食べやすく、飲み込みやすい形態にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっている。義歯の方は一週間に二回洗浄剤につけている。また希望者には、訪問歯科による、口腔の洗浄をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄リズム、排泄パターンを把握し、個々にあった対応を心がけている。排泄リズム等は日々変化していく為、体調にも留意している。	排泄パターン表を使用し、個別対応を行っている。天候や食事等で排泄リズムが変化する場合があります、日々の身体状態の把握に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に心がけ、毎日軽い体操をおこなっている。散歩や買い物と一緒に出かけ、体を動かす機会をつくるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの方にゆっくりと入浴していただけるように時間をとっている。入浴回数についても希望にそった支援をしている。	季節、天候によって開始時間が違う対応をしている。脱衣場、洗い場、浴槽に対しては工夫が成されていて、介護職の介助体勢にも充分考慮されている。本人の意向を一番に考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じ、いつでも自由に居室で休んでいただいている。就寝時間も各自のペースで自由に床に入っている。安眠できるように、冷暖房の調節をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルをつくり、職員全員が薬の内容をいつでも確認できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、服薬を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入院中の方に届ける為に千羽鶴を皆で折ったり、各自得意な分野を分担し、ひとつの作品を完成させてホールに展示したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では散歩、買い物等希望に添って外出できるよう支援している。地域に招かれ納涼祭に参加したり、ホームの車で近所にお花見に出かけたりするが、家族の協力も得、家族との外出も楽しんでもらうようにしている。	敷地内は自由に歩行可能である。公園が近くにあり職員同行で外出できる。桜の名所、名勝名刹等の見学は、ホームの車で支援をしている。ほたるの里へ出かけていきイベントと一緒に楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額については本人で管理していただいている。大きな金額は事務所で預かり、購入したい物があれば、一緒に買い物にでかけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時は、家族に電話をかけて話をしていただいている。また携帯をもっている方は、自由に家族と話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は安全と清潔を心がけ、居心地の良い場所となるよう努力している。季節感のある物を飾ったり、懐かしい音楽をかけたっている。	個別にくつろげる居室の居心地易さを提供できるように利用者と相談している。共有部分の空間は安全とともに季節感にも心を配っている。ソファの背もたれを倒すと食事ができる台が兼用できるのは他に類を見ない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りソファに座ってテレビをみたり、数人で折り紙をしたりと気分によって、自由にホールで過ごしていただいている。職員はその中に入り、さりげなく支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ今まで自宅で使用していた家具や布団など、馴染みの物を持ってきていただいている。仏壇を持ってきて、毎日ごはんを供える方もいる。	自室から屋外へでることができる部屋もあり、洗濯や布団干しが、自立でできている利用者もあり、生活の主導は利用者にあることを、職員は周知している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等十分な広さを確保し、障害物となるものは置かず、安全に生活できるように配慮している。		